

横浜こどもスポーツ基金「一歩踏み出そう！プロフェッショナルと自分の道を探せ！」報告

日 時	2025年12月6日
場 所	横浜国際プール
参加者 (うち障害児)	16名 (10名)
活動写真・内容など	<p>本事業は、障がいの有無や環境に関わらず、こどもたちが地域の中でスポーツに参加し、安心して挑戦できる機会を創出することを目的として、「一歩踏み出そう！プロフェッショナルと自分の道を探せ！」フロアボール編を実施した。</p> <p>横浜国際プール サブアリーナにて開催し、参加者16名、スタッフ21名が参加した。当日は、フロアボール元日本代表選手をコーチとして招き、レクチャータイムでは自身の競技経験をもとに、挑戦することの意義や失敗を乗り越える大切さについて伝えた。</p> <p>こどもたちはその話を受け、自ら挑戦目標を設定し、チャレンジタイムに臨んだ。チャレンジタイムでは、参加者一人ひとりが自分の目標に向かい、基礎的な動きから応用まで段階的に取り組んだ。</p> <p>コーチおよびスタッフが伴走する形でサポートを行い、未経験の参加者や障がいのある参加者も含め、安心してスポーツに取り組める環境を整えた。横浜国立大学の学生ボランティアも参加し、技術的支援と見守りを担った。</p> <p>また今回は、発達障害のある高校生が司会進行に初めて挑戦し、「誰もが安心して挑戦できる社会をつくりたい」という彼女の持つ想いのもと、コーチと参加者をつなぐ役割を担った。</p> 
全体所感	<p>本事業を通じて、障がいの有無や経験に関わらず、こどもたちがスポーツに主体的に関わり、自ら挑戦を決めて取り組む姿が多く見られた。未経験のこどもや障がいのあるこどもも含め、安心できる環境の中で身体を動かし挑戦を重ねることで、自信や意欲の向上につながっている様子が確認できた。</p> <p>4年目となる本年は、発達障害を持つ高校生による司会進行にも挑戦した。それを通して、本事業が参加者だけでなく関わるすべての人にとって挑戦の機会となる場へと広がり始めている。「支援される側・する側」という枠を超え、それぞれが役割を持ち、互いに関わり合う関係性が生まれつつある点は大きな一歩である。さらに、大学生ボランティアを含む多世代の関わりにより、地域の中で障がいのあるこどもたちがスポーツに参加しやすい環境づくりが進んでいる。</p> <p>こどもたちにとって、身近な地域でスポーツに挑戦し、他者と関わる経験は、夢や希望を持つきっかけとなる重要な機会であると考えます。今後も、すべてのこどもたちがスポーツを通じて挑戦し、成長できる機会を継続的に提供し、地域におけるインクルーシブなスポーツ環境の推進につなげていきたい。</p>

主催：NPO法人Connection of the Children 協力：横浜市健康福祉局、T3フロアボールプロジェクト他